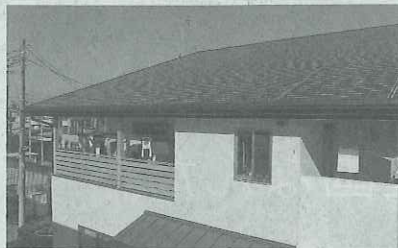


降雪地域でも発電量安定

カナメ、東北で売り込み

建物屋根の販売や施工を手掛けるカナメ(宇都宮市)は太陽光発電パネルと一体の屋根を東北地方で拡販する。現地の施工例から、冬に降雪があっても通年で安定して発電量を確保できることを確認した。2016年12月期は営業人員を東北各県の住宅会社や工務店に重点的に振り分け、費用対効果の良さを訴える。同事業の売り上げを今期比で2割伸ばす計画だ。

太陽光発電パネル一体型屋根



カナメの太陽光パネル一体型屋根「カナメソーラーーフ」は、主に住宅用の中小型や工場向けの大型など3種類がある。住宅の場合、一体型は既存の屋根にパネルを据え付けるのに比べ導入コストは4割ほど高い。半面、保守管理の手間が15年に1度と省け、維持費を含めた25年間の総額では逆に4割程度安くなるという。

導入費も太陽光による急傾斜の屋根でも施工でき、雪が落ちやすい(宇都宮市内の施工例)

ネットで小口資金調達

「上州地鶏」生産者らブランド強化

地鶏の生産者らでつくった群馬県地鶏生産販売促進プロジェクトは26日、「上州地鶏」のブランド強化に向けてインターネット経由で小口資金を集

認定期のほか、上州地鶏に関する専用サイトの開設に充てる計画だ。出資額は一口1000円〜2万円。額に応じて上

州地鶏を扱う料理店「軍鶏農場」の割引クーポン券や地鶏の鍋セットなどがもらえる。同店は居酒屋チェーンのチムニー

が運営し、群馬など関東を中心に店舗がある。上州地鶏は県産試験場が1989年頃に開発したブランド鶏で、弾力のある食感特徴。今年度から親鶏の交配を見直し、従来より約1.5倍大型化した。鶏の健康状態を良好に保つとされる桑の葉を飼料に混ぜるなど

サッカーJリーグ3部(J3)への降格が決まった栃木サッカークラブ(SCC、宇都宮市)は26日、中津正修会長と水沼富美男社長が辞任すると発表した。辞任時期や後任社長は未定。降格の責

任を取る形だが、水沼氏は「来期の予算編成とチーム作りは私のものと(在任中に)行う」と述べ、収益確保と支出削減の具体策作りは実質、現経営陣が担う。

会長と社長の辞任は26日夜に開いた臨時取締役会で決めた。現場責任者のゼネラルマネージャー(GM)や強化部長の職

会長・社長が辞任へ

栃木SCC、J3降格で

カスミが無料食育講座

茨城・取手の集会所で



カスミはトラックを使い、寄り先の一つである茨城県取手市の集会所で30日、食生活の向上に役立つ無料の食育講座を開く。自社の管理栄養士2人が講師となり、塩分や糖分など栄養素の働きなどについて説明する。参加条件は設けず、近隣に住む高齢者を中心に25人

移動スーパーの利用促す

カスミは茨城県内の3カ所で移動スーパーを運営している。今回は取手市の集会所を使い、パランスの取れた食生活を送るための工夫を紹介したり、移動スーパーでふだん販売している商品を使った味噌汁の試食会を開いたりする。食育を通じて移動スーパーの利用を促したい考えだ。

売電で7年で回収できる点などを訴え、各地で施工を担う住宅会社や工務店経由で販売してきた。ただ日照条件が厳しく発電効率が低いとみられがちな東北地方では販売が低迷。販売額(15年12月期見込みで9億円)のうち関東・中部が4割強、中国・四国が3割を占めるのに対して、東北は1割どまりだった。

そこで東北の青森県でカナメソーラーーフを施工した複数の物件と、関東の栃木県で屋根にパネルを据え付けた物件とを、各工務店の協力を得て比較検証。年間データから東北でも関東に近い水準の発電量を得られることがわかった。実績値が予測値を1.3割上回ったほか、夏場では関東を上回る例もあった。

東北では冬は積雪で発電効率が落ちるが、カナメソーラーーフは表面が平らで滑らかな上、傾斜を付けて設置できるため「雪が滑り落ちて日照を妨げなかった(同社)。夏場は温度上昇で発電効率が落ちるが、ソーラーーフに設けた高温を抑える通気構造が奏功し、発電量が高く保たれたとカナメはみている。

これらの利点を訴え、住宅会社や工務店経由で戸建て住宅のほか、診療所や老人ホーム、保育所といった医療・福祉関係の施設、個人経営の事業所などに売り込む。東北を中心とした屋根材の拡販と、寺社建築などの施工を合わせ、16年12月期の売上高を今期見込みの60億円から8%増の65億円に引き上げる。